



Oracle® Hyperion Profitability and Cost Management

リリース 11.1.2.3

External Automation Processes Guide

ORACLE
ENTERPRISE PERFORMANCE
MANAGEMENT SYSTEM

目次

Web サービスの概要	2
前提条件	2
WSDL ファイル	2
Web サービス API リファレンス - ProfitabilityService の使用	3
Profitability Web サービスの操作	6
カスタム・スクリプトの操作	22
Profitability and Cost Management サンプル・クライアント・ファイルの使 用	24

Web サービスの概要

Oracle Hyperion Profitability and Cost Management で、非常に長い、または反復するプロセスの実行を簡略化するには、Oracle Web Services Manager (OWSM)を使用して自社用のカスタム・スクリプトを作成します。これにより、オンサイト従業員がプロセスを開始しなくても、Oracle Essbase キューブの配置やデータの転送などのプロセスを本番環境で自動的に呼び出すことができます。

Java アプリケーション・プログラミング・インタフェース(API)を使用してカスタム・スクリプトを生成し、Profitability and Cost Management に対して Web サービス操作を呼出できます。使用可能な操作の全リストは、[6 ページの「Profitability Web サービスの操作」](#)を参照してください。

カスタム・スクリプトの作成を支援するために、このインストールにはサンプル・クライアントも用意されています。サンプル・クライアントは、Profitability and Cost Management で使用可能な Web サービス・コマンドを提供し、モデル内のデータの識別を支援します。

前提条件

Web サービスを使用して自動スクリプトを作成する前に、『Oracle Hyperion Enterprise Performance Management System インストールおよび構成ガイド』で説明されている次のコンポーネントをインストールおよび構成する必要があります:

- リポジトリ作成ユーティリティ(RCU)を実行します。Profitability and Cost Management の「構成後のタスク」を参照してください。
- Oracle Web Services Manager (OWSM)を構成します。Profitability and Cost Management の「Oracle Web Services Manager の構成」を参照してください。
- Web サービスのセキュリティを有効にします。Profitability and Cost Management の「構成後のタスク」を参照してください。

このドキュメントでは、次のコンポーネントに関する作業知識があることを前提としています:

- Oracle Web Services Manager
- WSDL
- XML
- XML スキーマ(XSD)
- SOAP

WSDL ファイル

Web サービス API のインタフェースは、Web Services Description Language (WSDL)ドキュメントによって定義されます。WSDL は XML ベースの言語で、Web サービスを説明し、サービスの場所およびサービスが公開する操作を示します。

Profitability and Cost Management Web サービスの WSDL ドキュメントを確認するには、<http://localhost:19000/profitability/ProfitabilityService?WSDL> を参照してください。

Web サービス API リファレンス - ProfitabilityService の使用

Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Web Service API Reference - Profitability Services に、Profitability Service のサンプル・クライアント・ファイルで使用されている WSDL Web サービス・コマンドのリストが記載されています。

操作ごとに、パラメータがハイライト表示されます。サンプル・ファイルから追加情報にナビゲートするには:

- プラス記号をクリックしてアイテムを展開し、関連付けられたコードを表示します。
- 任意のリンクをクリックすると、関連付けられた説明に接続します。たとえば、「String:applicationName」をクリックすると「Type: String」にリンクし、そのタイプに有効な値が表示されます。

特定のコーディングの詳細は、次の手順に説明するように、ドキュメント・ライブラリ内の Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Web Service API Reference - Profitability Services (Web サービス JavaDoc)を参照してください。

▶ Web サービス API リファレンス - Profitability Services ドキュメントにアクセスするには:

- 1 <http://www.oracle.com/technetwork/middleware/performance-management/documentation/index.html> にある OTN ドキュメント・ライブラリを開きます。
- 2 現在のリリースを特定します。
- 3 サイド・メニューで、「Financial PM Applications」を選択します。
- 4 「Oracle Hyperion Profitability and Cost Management, Fusion Edition」で「Web Service API Reference」を選択し、標準 Profitability アプリケーションと詳細 Profitability アプリケーションの両方の Web サービス API リファレンスを表示します。

Services

Service: ProfitabilityService

Namespace: <http://profitability.webservices.epm.oracle>
Location: ProfitabilityService.wsdl

[+Service Definition](#)

Interfaces (Port Types)

PortType: ProfitabilityService

Namespace: <http://profitability.webservices.epm.oracle>
Location: ProfitabilityService.wsdl

ProfitabilityService: Standard interface defining the methods and their definitions which Hyperion Profitability and Cost Management product will process as WebService methods.

Operation: applyBulkEdit

Namespace: <http://profitability.webservices.epm.oracle>
Location: ProfitabilityService.wsdl

Input Parameters:

[string](#) applicationName:
[bulkEditOptionsDTO](#) bulkEditOptions:

Output Parameters:

[string](#) return:

[+Operation Definition](#)

入出力パラメータ

サブトピック

- [パラメータ・タイプ](#)
- [入力パラメータ](#)
- [出力パラメータ](#)

操作は、Profitability and Cost Management の Web サービスから使用できるメソッドまたはタスクです。各操作には入力パラメータの定義が必要であり、使用中のデータや、実行中のプロセスまたはタスクを制御するための出力パラメータも必要な場合がほとんどです。使用可能な操作の全リストは、[6 ページの「Profitability Web サービスの操作」](#)を参照してください。

パラメータ・タイプ

入力および出力パラメータ、またはその他のオプションは、次のいずれかのタイプとして表示されます:

- データ転送オブジェクト(DTO) - DTO は、Profitability and Cost Management アプリケーション・サーバーからのデータの転送または取得に使用されるフォーマットです。DTO に関連付けられている動作はありません。

たとえば、bulkEditOptionsDTO を展開すると、オブジェクト宣言とそのアクセス可能なメンバー名の全詳細がオプションで指定されます。フィールド名

のみが表示され、データ値は自動的に移入されません。Java 開発者は、各フィールドに使用可能な"set"メソッドおよび"get"メソッドを使用して、値を設定するか既存の値を読み取る必要があります。

- ブール - ブール応答は常に TRUE または FALSE です。
- 文字列 - 文字列タイプは文字列コンテンツを指定する、または返すときに使用されます。例:
 - applicationName (登録された Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。たとえば、BksSP82、BksDP30 があります。)
 - xxxxStageList - モデル内のステージ名のリスト。この変数の使用例は、表 5 クラス内にあります。たとえば、generateStageList、calculateStageList があります。
 - importConfigName - Profitability and Cost Management アプリケーションで作成されたインポート構成の名前。
 - paths - Profitability and Cost Management アプリケーションで作成された、有効なシステム実行パス。

注： 後続ステージの自動選択は Web サービスで使用できないため、processCalcScriptOptions では、clearAllStageList および clearAllCalculatedStageList について、すべてのステージを入力する必要があります。

入力パラメータ

入力パラメータは操作の実行に必要な情報を提供します。

パラメータには、次の 2 つのタイプがあります:

- シンプル・パラメータ・タイプ - これらのパラメータは、"String"値などの基本的な Java データ型を使用して定義されます。たとえば、アプリケーションで使用可能なすべての POV のリストをフェッチする場合は、getPOVs() 関数を使用して、基本 Java データ型である入力パラメータ String applicationName (アプリケーションの名前)を渡します。
- 複合パラメータ・タイプ - これらのパラメータは、DTO として定義されます。たとえば、CopyPOVDTO、CubeDeployOption があります。

表 3 および表 4 を参照してください。

出力パラメータ

出力パラメータは操作によって要求される情報を提供します。

deleteApplications() などの一部の操作については、出力パラメータが生成されません。

パラメータには、次の 2 つのタイプがあります:

- シンプル・パラメータ・タイプ - これらのパラメータは、"String"値などの基本的な Java データ型を使用して定義されます。たとえば、Oracle Essbase キューブ配置または POV データのコピーの要求時には、TaskflowID が生成されます。
- 複合パラメータ・タイプ - これらのパラメータは、複合データ型を使用して定義されます。たとえば、getApplications() Web サービス・メソッドを使用してすべての既存アプリケーションのリストを要求する際は、List<ApplicationDTO>が返されます。

Profitability Web サービスの操作

サブトピック

- [applyBulkEdit](#)
- [clearASOCube](#)
- [clearPOVData](#)
- [copyPOVData](#)
- [deleteApplications](#)
- [deletePOV](#)
- [deployCube](#)
- [getApplicationType](#)
- [getApplications](#)
- [getApplicationsByType](#)
- [getAssignmentRuleDefinitions](#)
- [getDriverDefinitions](#)
- [getPOVs](#)
- [getStages](#)
- [getTaskflowStatusByProcessName](#)
- [prepareDetailedViewsForReporting](#)
- [processCalcScripts](#)
- [processDetailedCalculations](#)
- [processGenealogyExecutionPaths](#)
- [processGenealogyPathsWithoutASOCubeClear](#)
- [runImportFromStaging](#)

カスタム・スクリプト内の PortType を ProfitabilityServices に設定すると、事前定義された Profitability and Cost Management 操作のリストが使用可能になります。操作の全リストは、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Web Service API Reference - Profitability Services から入手できます。

カスタム ProfitabilityServicePortTypeClient プログラムで必要な操作を呼び出すことにより、既存のすべての Profitability and Cost Management アプリケーションのリストを表示する getApplications などの特定のタスクを実行できます。

注意 Web サービス・リクエストの入力パラメータとして提供されたデータ(アプリケーション名、ステージ名、POV 名またはその他の関連データ)が Profitability and Cost Management データベースに存在しない場合、操作は失敗するため、存在していることを確認します。

すべての操作の API コマンドの詳細は、Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Web Service API Reference - Profitability Services を参照してください。このドキュメントは、3 ページの「Web サービス API リファレンス - ProfitabilityService の使用」に示すように、OTN ドキュメント・ライブラリから入手できます。

注： 次の表のすべての例は、%EPM_ORACLE_HOME%\products\Profitability\samples - BksDP30 および BksSP82 に付属しているサンプル・アプリケーション内にあります。

applyBulkEdit

この操作を使用して、指定されたソース割当てルールのバルク編集を宛先ルール、または Profitability and Cost Management の詳細アプリケーションのドライバによって実行します。

入力パラメータ

- String applicationName - このバルク編集操作が適用される対象の Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- オプション: BulkEditOptionsDTO bulkEditOptions - 「バルク編集の適用」操作の実行に必要な情報が含まれる DTO。

表 1 BulkEditOptionsDTO

変数	説明	例
sourceRules	このバルク編集操作に選択されているソース割当てルール名のリスト。	すべての構築アクティビティの適用
destinationRules	このバルク編集操作に選択されている宛先割当てルール名のリスト。 注： この値は、BulkEditOperations.ADD_ASSIGNMENT_RULES と BulkEditOperations.REMOVE_ASSIGNMENT_RULES によってのみ渡される必要があります。	販売オーダーから請求書
drivers	このバルク編集操作の一環として、選択されたソース割当てルールに適用されるドライバの名前。 注： BulkEditOperations.ADD_DRIVER 操作の使用時は 1 つのドライバ名のみが提供されますが、BulkEditOperations.REMOVE_DRIVERS 操作の使用時はドライバ名のリストが提供される場合があります	DRV ビルド製品

変数	説明	例
operation	<p>バルク編集操作を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ADD_DRIVERS ○ REMOVE_DRIVERS ○ ADD_ASSIGNMENT_RULES ○ REMOVE_ASSIGNMENT_RULES 	ADD_DRIVERS
povGrp	<p>このバルク編集操作が適用される対象の POV の次元メンバー名を指定します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ povDimensionMember1 ○ povDimensionMember2 ○ povDimensionMember3 ○ povDimensionMember4 ○ povState 	<pre>povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = January povDimensionMember3 = Actual Draft</pre>
selectAllRulesOrDriversForDelete	<p>すべての宛先割当てルールまたはドライバを、削除のために選択する必要があるかどうかを示すブール・フラグ。</p> <p>有効な値は TRUE または FALSE です。</p> <p>注： この値は、BulkEditOperations.REMOVE_DRIVERS および BulkEditOperations.REMOVE_ASSIGNMENT_RULES によってのみ渡される必要があります。</p>	FALSE
selectEntireStageForDelete	<p>ステージ全体を削除のために選択する必要があるかどうかを示すブール・フラグ。</p> <p>有効な値は TRUE または FALSE です。</p>	FALSE
comment	このバルク編集操作のコメントを指定します。	"ドライバを追加するためのバルク編集操作"

出力パラメータ

- @return String - この操作に対して生成された CES タスク ID。

注： 16 ページの「[getTaskflowStatusByProcessName](#)」操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

clearASOCube

この操作を使用して、アプリケーション名、POV およびレイヤーの特定の組合せに対する ASO キューブを消去します。

入力パラメータ

- String applicationName - 使用する Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- povMemberGroupDTO pov - POV 情報

表 2 POVMemberGroupDTO

変数	説明	例
povDimensionMember1	位置 1 の POV 次元メンバー名	2012
povDimensionMember2	位置 2 の POV 次元メンバー名	January
povDimensionMember3	位置 3 の POV 次元メンバー名	Actual
povDimensionMember4	位置 4 の POV 次元メンバー名	Plan
povState	POV の状態。有効な値は「ドラフト」、「公開済」または「アーカイブ済」	Draft

- layer layerName - レイヤー名。例: COST、REVENUE

出力パラメータ

- @return String - このタスクに対して生成された CES タスク ID。

注： 16 ページの「[getTaskflowStatusByProcessName](#)」操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

clearPOVData

この操作を使用して、選択ステージおよびその他の詳細の POV データを消去します。

入力パラメータ

- String applicationName - Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- ClearPOVDTO clearPOVData - POV 消去オプション。

表 3 ClearPOVDTO

変数	説明	例
clearAssignmentRuleSelections	割当てルールの選択を消去するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
clearCalculationRules	計算ルールを消去するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE

変数	説明	例
clearCostLayer	費用レイヤーを消去するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
clearDriverSelectionExceptions	ドライバの選択の例外を消去するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
clearDriverSelectionRules	ドライバの選択ルールを消去するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
clearRegularAssignments	通常の割当てを消去するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
clearRevenueLayer	収益レイヤーを消去するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
pov	このバルク編集操作が適用される対象の POV の次元メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> ○ povDimensionMember1 ○ povDimensionMember2 ○ povDimensionMember3 ○ povDimensionMember4 ○ povState 	<pre>povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = January povDimensionMember3 = Actual povState = Draft</pre>
povGrp	このバルク編集操作が適用される対象の POV の次元メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> ○ povDimensionMember1 ○ povDimensionMember2 ○ povDimensionMember3 ○ povDimensionMember4 ○ povState 	<pre>povDimensionMember1 = 2012 povDimensionMember2 = January povDimensionMember3 = Actual povState = Draft</pre>
stages	このバルク編集操作が適用される対象の POV の次元メンバー名を指定します: <ul style="list-style-type: none"> ○ stages 1 ○ stages 2 ○ stages 3 ○ stages N, stages N = [displayOrder = (int)、例: 1; stageName = (string)] 	元帳データ

出力パラメータ

POV データは即時に消去されるため、この操作の戻り値(または)出力パラメータはありません。

copyPOVData

この操作を使用して、モデル・アーティファクトとソース POV の組合せのデータを、宛先 POV の組合せにコピーします。この操作は、画面で「モデルの管理」>「POV マネージャ」>「コピー」を選択することでサポートされる機能に対応しています。

入力パラメータ

- String applicationName - copyPOVData 操作が実行される対象の Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- CopyPOVDTO copyPOVData - POV のコピー機能の選択詳細。この DTO のすべてのブール値は、「モデルの管理」>「POV マネージャ」>「コピー」画面で使用できるチェック・ボックスに対応しています。表 3 を参照してください。

出力パラメータ

- @return String - この操作に対して生成された CES タスク ID。

注： 16 ページの「getTaskflowStatusByProcessName」操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

deleteApplications

この操作を使用して既存の Profitability and Cost Management アプリケーションと、その Oracle Hyperion Shared Services との関連付けを削除します。

注意 deleteApplications 操作では、すべての POV および関連する Essbase キューブのモデル・データ全部が削除されるため、慎重に実行してください。

注： アプリケーションは、Oracle Hyperion EPM Architect ライブラリでは引き続き使用可能です。このアプリケーションを Profitability and Cost Management に再配置するには、Oracle Hyperion EPM Architect で「診断」を実行し、ステータスを「未配置」に戻して設定します。

入力パラメータ

- String applicationName - Profitability and Cost Management データベースから削除される予定で、Oracle Hyperion Shared Services に未登録のアプリケーションの名前。

出力パラメータ

- なし。

deletePOV

この操作を使用して、Profitability and Cost Management アプリケーションの既存の POV を削除します。

注意 この POV に関連付けられたすべてのモデル・データもこの操作によって削除されるため、操作の使用時には注意してください。

入力パラメータ

- String applicationName - POV が削除される対象の Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- POVMemberGroupDTO povDTO - このバルク編集操作が適用される対象の POV の次元メンバー名を指定します。表 2 を参照してください。
- layerName - 有効な値: COST、REVENUE

この操作を設定する場合、次の条件が適用されます:

1. 操作には少なくとも 1 つの POV 次元メンバー名が必要です。
2. 値は、アプリケーションで定義されている変数のみに設定できます。POV が 2 つの POV 次元を使用して定義されている場合は、povDimensionMember1 および povDimensionMember2 に対する値のみを指定します。その他の値は"NULL"のままにします。
3. povState は、getPOVs 操作が使用される場合のみ代入されます。このフィールドは、いずれかの操作で POVMemberGroupDTO をパラメータとして渡すときは不要です。表 2 を参照してください。

出力パラメータ

- なし。

deployCube

この操作を使用して、選択した標準 Profitability アプリケーションの計算キューブまたはレポート・キューブを、配置または再配置します。

CubeDeployOptionsDTO オプションは、「計算」を選択したときのアプリケーションのラジオ・ボタンおよびチェック・ボックスに関連します。

入力パラメータ

- String applicationName - 配置または再配置の対象となる、Profitability and Cost Management アプリケーションの計算キューブまたはレポート・キューブの名前。
- CubeDeployOptionsDTO cubeDeployOptions - キューブの配置に関する選択詳細を入力します。

表 4 CubeDeployOptionsDTO

変数	説明	例
cubeType	有効な値: ○ CALCULATION_CUBE ○ REPORTING_CUBE	CALCULATION_CUBE REPORTING_CUBE
firstTimeDeployment	このアプリケーションで初めてキューブが配置されているかどうかを示すブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	FALSE
updateDatabase replaceDatabase	どちらの変数もアプリケーションのラジオ・ボタンに関連するため、いずれか一方のみを TRUE に設定する必要があります。 データベースを更新するかどうかを示すブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。 注： その他のパラメータ (archiveDataBeforeDeploy、archiveDataAndReloadAfterDeploy、deleteDataArchiveAfterReload) は、updateDatabase が TRUE に設定されている場合にのみ TRUE に設定できます。	TRUE
archiveDataBeforeDeploy	配置の開始前にデータをアーカイブするかどうかを示すブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
archiveDataAndReloadAfterDeploy	配置前にアーカイブされたデータを、配置の完了後にリロードするかどうかを示すブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
deleteDataArchiveAfterReload	アーカイブされたデータをリロード後に削除するかどうかを示すブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE

出力パラメータ

- @return String- キューブの配置アクション用として生成された CES タスクフロー ID。

注： 16 ページの「[getTaskflowStatusByProcessName](#)」操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

getApplicationType

この操作を使用すると、既存の Profitability and Cost Management アプリケーションのアプリケーション・タイプが General (標準 Profitability の場合) または Detail (詳細 Profitability の場合) として表示されます。

入力パラメータ

- String applicationName - アプリケーション・タイプが取得される対象の Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。

出力パラメータ

- @return String - ApplicationType return - 次のタイプが返されます:
 - GENERAL (標準 Profitability アプリケーションの場合)
 - DETAIL (詳細 Profitability アプリケーションの場合)

getApplications

この操作を使用して既存の Profitability and Cost Management アプリケーションをすべてリストします。

入力パラメータ

- なし。

出力パラメータ

- @return List<ApplicationDTO> - アプリケーション情報が含まれる ApplicationDTO のリスト。

getApplicationsByType

この操作を使用して、選択したタイプの Profitability and Cost Management アプリケーションをすべてリストします。

入力パラメータ

- String applicationType - Profitability and Cost Management アプリケーション・サーバーからフェッチされるアプリケーションのタイプを指定します。有効な値は次のとおりです:
 - GENERAL (標準 Profitability アプリケーションの場合)
 - DETAIL (詳細 Profitability アプリケーションの場合)

出力パラメータ

- @return List<ApplicationDTO> - 選択したタイプのアプリケーションのリストを返します。

getAssignmentRuleDefinitions

この操作を使用して、指定された詳細 Profitability アプリケーションの特定のステージに対して、(関連付けではなく)割当てルールの定義をすべて取得します。

入力パラメータ

- String applicationName - 割当てルールの定義が取得される対象の詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- String stageName - 割当てルールの定義を取得する対象のステージ名を指定します。

出力パラメータ

- @return List<AssignmentRuleDTO> - 前述の入力パラメータに一致する AssignmentRuleDTO のリスト。

getDriverDefinitions

この操作を使用して、詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションのすべてのドライバ定義をリストします。

入力パラメータ

- String applicationName - ドライバ定義を表示する対象の詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。

出力パラメータ

- @return List<DriverDTO> - DriverDTO のリストを返します。

getPOVs

この操作を使用して、選択したアプリケーションのすべての POV 詳細を取得します。

入力パラメータ

- String applicationName - POV が取得される対象の Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。

出力パラメータ

- @return List<POVMemberGroupDTO> - POV 情報が含まれる POVMemberGroupDTO のリスト。関連付けられているメンバーのリストは、[表 2](#) を参照してください。

getStages

この操作を使用して、選択したアプリケーションのすべてのステージ詳細を取得します。このコマンドを使用して、ステージの名前および表示順序を検索できます。

入力パラメータ

- String applicationName - ステージ詳細が取得される対象の Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。

出力パラメータ

- @return List<StageDTO> - ステージ情報が含まれる StageDTO のリストを返します。

getTaskflowStatusByProcessName

この操作を使用して、ジョブ・プロセス名の現在のステータス(CES タスクフロー)を、タスクフロー・ステータス(要約)に表示されるとおりに参照します。有効なステータスは、新規、アクティブ、停止済および完了です。

入力パラメータ

- String processName - ステータスを取得する CES プロセス名。

出力パラメータ

@return String- 指定したタスクフロー・プロセス名のすべてのタスクとそのステータスのカンマ区切りの値。これは、アプリケーション内の「タスクフロー・ステータス」画面上のタスクフローです。

たとえば、12345 および 123455 という ID で作成された 2 つのタスクがプロセスにある場合、タスク ID およびステータスは次のように表示されます: 12345=Done, 123455=Active。

prepareDetailedViewsForReporting

この操作を使用して、詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションのビューを用意します。

入力パラメータ

- String applicationName - レポート用ビューが用意される対象の詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- List<DimensionDTO> dimensions - レポート用ビューの生成に含まれる次元の、名前および短い名前のプロパティのリストを指定します。

出力パラメータ

- なし。

processCalcScripts

この操作を使用して、選択した標準 Profitability アプリケーションのプロセスを開始し、計算スクリプトを実行します。次のアクションは、アプリケーションの「計算の管理」タブ上のチェック・ボックスに関連します:

- すべて消去
- 計算済の消去
- 生成
- 計算
- 計算後にデータを転送

注: clearAllStageList または clearAllCalculatedStageList の場合、消去するすべてのステージ名をリストします。どのステージも消去しない場合は、空の引用符を使用します

入力パラメータ

- String applicationName - 選択したオプションに応じて、計算スクリプトが生成および実行される対象の標準 Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- CalcScriptOptionsDTO options: - 計算スクリプトの処理に関する選択詳細。

表 5 CalcScriptOptionsDTO

変数	説明	例
povGrp	計算スクリプトの生成および実行が、実行される対象の POV 情報。表 2 を参照してください。	<pre>povDimensionMember1=2012 povDimensionMember2=March povDimensionMember3=Actual povState=Draft</pre>
layerName	計算スクリプトが生成および実行される対象のレイヤー名。有効な値: <ul style="list-style-type: none">○ COST○ REVENUE	COST
clearCalculatedStageList	計算済データの消去が必要とされるステージ名のリスト。	会計データ、アクティビティ
clearAllStageList	すべての情報のクリアが必要とされるステージ名のリスト。	会計データ、アクティビティ

変数	説明	例
generateStageList	計算スクリプトの生成が必要とされるステージ名のリスト。	会計データ、アクティビティ
calculateStageList	計算スクリプトの実行が必要とされるステージ名のリスト。	会計データ、アクティビティ
transferData	データ転送の実行が必要かどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	FALSE

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成された CES タスク ID。

注： 16 ページの「[getTaskflowStatusByProcessName](#)」操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

processDetailedCalculations

この操作を使用して、選択した詳細 Profitability アプリケーションの計算を処理および実行します。次のアクションは、アプリケーションの「計算の管理」タブ上のチェック・ボックスに関連します:

- clearCalculated - 「処理のオプション」 > 「計算済の値を消去」
- createContributionDetail - 「処理のオプション」 > 「計算の実行」 > 「コントリビューションの詳細の作成」
- createDetailCalculatedDriverTables - 「処理のオプション」 > 「計算の実行」 > 「計算済ドライバ・テーブルの詳細の作成」
- executeCalculations - 「処理のオプション」 > 「計算の実行」
- runSingleCalcRuleSequence - 「処理のオプション」 > 「単一の計算ルール・シーケンスの実行」
- abortOnError - 「処理のオプション」 > 「制限されたソース・セットでのプレビュー」
- transferToContribDb - 「処理のオプション」 > 「データ転送」 > 「コントリビューション・データベース」
- transferToDstStgDb - 「処理のオプション」 > 「データ転送」 > 「宛先ステージ・データベース」
- transferToSrcStgDb - 「処理のオプション」 > 「データ転送」 > 「ソース・ステージ・データベース」

入力パラメータ

- String applicationName - 計算される対象の詳細 Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- DetailedCalculationOptionsDTO calc options - 計算を実行するための選択詳細。

表 6 DetailedCalculationOptionsDTO

変数	説明	例
clearCalculated	前に計算した値をクリアするかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
executeCalculations	この操作の一環として計算を実行するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。 注： executeCalculations フラグが TRUE に設定されている場合、createContributionDetail、createDriverTables および runSingleCalcRuleSequence の値を指定する必要があります。	TRUE
createContributionDetail	コントリビューションの詳細を作成することを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
createDetailCalculatedDriverTables	計算済ドライバ・テーブルを作成するかどうかを指定するブール・フラグ。	TRUE
dataPOVMemberGroups	計算時にデータ POV について考慮が必要な POV 次元メンバー・グループの詳細リスト。 表 2 を参照してください。	povDimensionMember1=2012 povDimensionMember2=January povDimensionMember3=Actual
modelPOVMemberGroup	計算の実行時の、モデル POV 次元メンバー・グループの詳細。	povDimensionMember1=2012 povDimensionMember2=January povDimensionMember3=Actual
runSingleCalcRuleSequence	計算時に単一の計算ルール・シーケンスを考慮するかどうかを指定するブール・フラグ。有効な値は TRUE または FALSE です。	FALSE
postScript	計算後スクリプトの名前	POST

変数	説明	例
preScript	計算前スクリプトの名前	PRE
calcRuleSequence	計算ルール・シーケンス値。	有効な値は 1 - 9999 です。
transferToSrcStgDb	ソース・ステージ・データベースに対してデータ転送を実行するかどうかを指定するブール・フラグ。	有効な値は TRUE または FALSE です。
transferToDstStgDb	宛先ステージ・データベースに対してデータ転送を実行するかどうかを指定するブール・フラグ。	有効な値は TRUE または FALSE です。
transferToContribDb	コントリビューション・データベースに対してデータ転送を実行するかどうかを指定するブール・フラグ。	有効な値は TRUE または FALSE です。
abortOnError	有効な値は TRUE または FALSE です。	TRUE
comment	(文字列)	オプションのフィールド

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成された CES タスク ID。

注： 16 ページの「[getTaskflowStatusByProcessName](#)」操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

processGenealogyExecutionPaths

この操作を使用して、選択した標準 Profitability アプリケーションに対して定義されている系統パスを実行します。次のアクションは、「計算」>「計算の管理」>「系統」タブを選択したときのチェック・ボックスに関連します。

入力パラメータ

- String applicationName - 系統パスが計算される対象の Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- GenealogyOptionsDTO genealogyInfo - 系統パスの実行に関する選択詳細。

表 7 GenealogyOptionsDTO

変数	説明	例
layerName	<p>系統実行パスが実行される対象のレイヤー名。有効な値は次のとおりです:</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ COST ○ REVENUE 	Layer.COST
paths	系統実行パスのリスト	1-3-5
povGrp	<p>この系統パスの実行に関連する POV 次元メンバー・グループ情報を指定します。</p> <p>表 2 を参照してください。</p>	<pre>povDimensionMember1=2012 povDimensionMember2=January povDimensionMember3=Actual povState=Draft</pre>

出力パラメータ

@return String - この操作に対して生成された CES タスク ID。

注： 16 ページの「[getTaskflowStatusByProcessName](#)」操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

processGenealogyPathsWithoutASOCubeClear

この操作を使用して、その POV とレイヤーの組合せに対する ASO キューブを消去せずに系統コントリビューション・パスを実行します。

注： 使用目的は、標準原価計算 HPCM アプリケーションで複数の POV に対して系統を実行することです。同じ POV に対して複数の系統計算を実行するためのものではありません。

入力パラメータ

- String applicationName - Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- GenealogyOptionsDTO genealogyInfo - 系統パスの実行に関する選択詳細。[表 7](#) を参照してください

出力パラメータ

@return String - 系統パスの実行用として生成された CES タスク ID。

注： 16 ページの「[getTaskflowStatusByProcessName](#)」操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

runImportFromStaging

この操作を使用して、ステー징・テーブルから Profitability and Cost Management アプリケーションへの選択済のインポートを起動します。

入力パラメータ

- String applicationName - インポート構成によってデータがインポートされる対象の Profitability and Cost Management アプリケーションの名前。
- String importConfigName - 実行するインポート構成の名前。

出力パラメータ

- @return String - インポート構成の実行のために生成された CES タスク ID。

注： 16 ページの「[getTaskflowStatusByProcessName](#)」操作を使用して、(「タスクフロー・ステータス(要約)」に表示される)この CES タスクフロー名のステータスを取得します。

カスタム・スクリプトの操作

サブトピック

- [カスタム・スクリプトの要件](#)
- [カスタム・スクリプトの作成](#)

Web サービス API リファレンスは、カスタム ProfitabilityServicePortTypeClient クラスの開発を目的とする Java 開発者を対象としています。

カスタム・スクリプトは Profitability and Cost Management 操作を使用して構築できます。

カスタム・スクリプトの要件

カスタム・スクリプトで次のコマンドを使用することで、Profitability and Cost Management に対して使用可能な Web サービスを呼び出します。各カスタム・スクリプトには、[表 8](#) に説明のあるコンポーネントの一部またはすべてが必要です。

表 8 Profitability and Cost Management のカスタム・スクリプトの要件

スクリプト・アイテム	説明
ネームスペースおよび場所	<p>ネームスペースおよび場所は、サービスを含むすべてのコマンドまたは操作に使用します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ネームスペースは Profitability Web サービス: http://profitability.webservices.epm.oracle を識別します ● 場所は参照している ProfitabilityService.wsdl ドキュメントの場所を識別します。
サービス	各スクリプトについて、サービスを ProfitabilityService に設定すると、Profitability and Cost Management に定義された Web サービス操作が有効になります。
「インタフェース (ポート・タイプ)」	ポート・タイプ・クラス を ProfitabilityService に設定します。
操作	<p>操作とは、使用可能な Web サービスのことです。</p> <p>使用可能な各操作には、次の情報が API リファレンスで定義されています:</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 操作 ● 入力パラメータ ● 出力パラメータ(必要な場合) ● 操作定義 ● バインディング操作定義 <p>API リファレンスのトピックを展開すると、関連コードが表示されます。</p>
入力パラメータ	<p>各操作には、入力パラメータが必要な場合があります。</p> <p>たとえば、String applicationName では、POV を取得する対象のアプリケーションの名前を入力する必要があります。</p>
出力パラメータ	各操作には、出力パラメータが存在する場合があります。
操作定義	サービスごとに、タスクの実行に使用される可能性のあるメソッドまたは操作がいくつか存在します。
バインディング操作定義	バインディング操作は、指定したポート・タイプの操作およびメッセージのメッセージ・フォーマットとプロトコル詳細に関する情報を定義します。
メッセージ	メッセージは、例外が発生した場合に表示される障害メッセージです。これらのメッセージは自動的に表示され、カスタム・スクリプトでのコーディングは必要ありません。
要素	要素は、.wsdl ファイルで定義されるため、カスタム・スクリプトでのコーディングは必要ありません。
タイプ	タイプは、指定したパラメータのラッパー・タイプを表し、パラメータを戻します。カスタム・スクリプトでのコーディングは必要ありません。

カスタム・スクリプトの作成

カスタム Web サービス・スクリプトを生成する場合、サービス名を識別し、呼び出す操作を選択する必要があります。

- ▶ Profitability Web サービスのカスタム・スクリプトを作成するには:
- 1 Web サービスに対して有効にするサーバーを設定します。Oracle Enterprise Performance Management System Installation and Configuration Guide を参照してください。
 - 2 コーディング時に、「ProfitabilityService」サービス名を選択します。(詳細は、[24 ページの「Profitability and Cost Management サンプル・クライアント・ファイルの使用」](#)を参照してください。)
 - 3 Web サービス・クライアントを作成し、実行する操作を選択します。
 - 使用可能な操作のリストは、[6 ページの「Profitability Web サービスの操作」](#)を参照してください。
 - 各操作のパラメータの詳細な説明は、OTN ドキュメント・ライブラリ内の Oracle Hyperion Profitability and Cost Management Web Service API Reference - Profitability Services (Web サービス JavaDoc)を参照してください。
 - 4 **オプション:** .bat または .sh スクリプトを使用してプログラムを実行するには、新しく作成した Web サービス・クライアント名と一致する既存のファイルを編集します。

Profitability and Cost Management サンプル・クライアント・ファイルの使用

サブトピック

- [サンプル・クライアント環境の設定](#)
- [サンプル・クライアント・ファイルの使用](#)
- [コードのコンパイル](#)

Web サービスのサンプル・クライアント・ファイルには、Profitability and Cost Management を自動化するためのカスタム・スクリプトで使用可能なコマンドが表示され、Profitability and Cost Management モデル内のデータが識別されます。このサンプル・クライアント・ファイルは、カスタム・スクリプトの作成を支援するためのガイドのみを目的としています。

サンプル・クライアント環境の設定

- ▶ サンプル・クライアント環境を設定するには:
- 1 コマンド・ウィンドウを開きます。
 - 2 **オプション:** Oracle Hyperion Enterprise Performance Management Workspace がインストールされているマシンと同じマシン上で作業していない場合は、サンプルにアクセスするマシンにフォルダ `%EPM_ORACLE_HOME%/products/Profitability/samples/wsclient` をコピーします。
たとえば、`C:\wsclient` です。

- 3 ProfitabilityService と関連付けられている SecurityPolicy が USERNAME_WITH_SAML_TOKEN の場合、以下にリストされたソース・フォルダから次のファイルを wsclient フォルダにコピーします。

手順 4 で、hpm_ws_client.properties ファイル内にこれを構成設定として指定できます。

表 9 サンプル・クライアントに必要なファイル

ソース・フォルダ	ファイル名
%EPM_ORACLE_HOME%/../user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig	jps-config.xml
%EPM_ORACLE_HOME%/../user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig	<<Associated keystore file.XXXX.jks>>
ファイルベース・セキュリティを使用している場合は、%EPM_ORACLE_HOME%/../user_projects/domains/EPMSysstem/config/fmwconfig	cwallet.sso

- 4 ローカル設定に合うように hpm_ws_client.properties ファイルを編集します:

```
#Open the HPCM WSDL URL which is to be accessed. For example:
http://localhost:19000/profitability/ProfitabilityService?WSDL (or)
{DRIVE_LETTER}:{FILE_PATH}/FILE_NAME.wsdl hpcm.wsdl.url=http://localhost:19000/
profitability/ProfitabilityService?WSDL

#Delimiter used to separate String literals in paramters
string.delimiter=_

# Delimiter used to separate logical entities in parameters
# For example, when passing multiple POVs at a time, please use this to delimit
POVs
# For example: 2009_January_Actual#2009_March_Actual when passing 2 POVs
string.logical.delimiter=#

# SecurityPolicy associated with ProfitabilityService, that needs to be used by
Sample Client.
# The sample client is programmed to work with only one of 2 values:
# a. USERNAME_TOKEN
# b. USERNAME_WITH_SAML_TOKEN
hpcm.service.security.policy=USERNAME_TOKEN

## These next two values are needed only when the security policy is
USERNAME_TOKEN
## USERNAME_TOKEN
#HSS user name for the Profitability user.
hss.username=admin

#Password for the username above.
hss.password=password123

## These next three values are needed only when the security policy is
USERNAME_WITH_SAML_TOKEN
## USERNAME_WITH_SAML_TOKEN

# Full Path of the jps-config.xml file in use.
jps.config.file=C:/wsclient/jps-config.xml
```

```
#WSS Recipient key alias name used.  
wss.recipient.key.alias=adminalias
```

```
# WSS Credential Store Framework key used.  
wss.csf.key=epmpcm.credentials
```

- 5 **オプション:** Oracle Enterprise Performance Management Workspace がインストールされているマシンと同じマシン上で作業していない場合は、JDeveloper 11.1.1.6.0 をダウンロードしてローカルにインストールし、適切な JAVA_HOME および MIDDLEWARE_HOME フォルダを取得します。
- 6 コマンドまたはシェル・ウィンドウから、次の環境変数を設定します:

表 10 サンプル・クライアント環境の変数

環境変数	場所
JAVA_HOME	Java Development Kit が使用可能な場所: <ul style="list-style-type: none">● Windows の場合、SET JAVA_HOME=C:/Oracle/Middleware/jdk160_29 と入力します● UNIX の場合、export JAVA_HOME=/usr/c/Oracle/Middleware/jdk160_29 と入力します
MIDDLEWARE_HOME	Oracle Middleware ホームがインストールされている場所。 <ul style="list-style-type: none">● Windows の場合、SET MIDDLEWARE_HOME=C:/Oracle/Middleware と入力します● UNIX の場合、export MIDDLEWARE_HOME=/usr/c/Oracle/Middleware と入力します

- 7 コマンド・ウィンドウで、C:\wsclient に移動し、次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat -help
```

使用可能なすべての関数のリストが表示されます。

- 8 サンプル・クライアント・ファイルに指定されているフォーマットおよび操作を使用して、カスタム・スクリプトを構築します。26 ページの「[サンプル・クライアント・ファイルの使用](#)」を参照してください。

サンプル・クライアント・ファイルの使用

サンプル・クライアント・ファイルは、Web サービスを介して Oracle Hyperion Profitability and Cost Management データにアクセスするカスタム・スクリプトの構築をガイドすることのみを目的としています。サンプル・クライアント・ファイルは、%EPM_ORACLE_HOME%/products/Profitability/samples/wsclient から入手できます。これらのファイルは、バッチ・スクリプト(Windows OS)およびシェル・スクリプト(UNIX/Linux OS)を使用して作成されています。

▶ サンプル・クライアント・ファイルを使用するには:

- 1 コマンド・ウィンドウで、C:\wsclient に移動します。24 ページの「[サンプル・クライアント環境の設定](#)」を参照してください。

2 次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat - help
```

使用可能な機能のリストは、6 ページの「Profitability Web サービスの操作」を参照してください。

3 実行する操作を選択し、次のフォーマットでコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat - help <operation_name>
```

たとえば、getPovs 操作の使用詳細を取得するには、次のフォーマットでコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat - help getPovs
```

4 サンプル・クライアント・ファイルを使用して操作を実行するには、次のフォーマットでコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat <operation_name> <<parameters>>
```

● 例 1: すべてのアプリケーションのリスト

たとえば、使用可能なすべてのアプリケーションのリストを取得するには、次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat getApplications
```

● 例 2: すべての POV のリスト

たとえば、特定のアプリケーションのすべての POV のリストを取得するには、次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat getPovs <<application name>>
```

● 例 3: ステージの取得

たとえば、アプリケーションのステージを取得するには、次のコマンドを入力します:

```
hpm_ws_client.bat getStages <<application name>>
```

コードのコンパイル

クライアント・サンプルは、次のフォーマットで提供されます:

- ソース・コードとして(wsclient/src/oracle/epm/webservices/profitability/client/ProfitabilityServicePortTypeClientSample.java 内)
- コンパイルされたバイナリ・ファイルとして(wsclient/lib/hpcmwsclient-sample.jar 内)

コードを正常にコンパイルするには、common.components.home フォルダの場所を指定する必要があります。

なんらかの理由でソース・コードを再コンパイルする必要がある場合は、Ant を使用して再コンパイルできます。Ant 用の build.xml ファイルは wsclient フォルダ内にあります。

▶ ソース・コードを再コンパイルするには:

1 コマンドまたはシェル・ウィンドウを開き、`common.components.home` フォルダの場所を指定します。

このフォルダは、`MIDDLEWARE_HOME/oracle_common` として定義されています。MIDDLEWARE_HOME は、次のように設定されています:

- Windows の場合: `SET MIDDLEWARE_HOME=C:/Oracle/Middleware`
- UNIX の場合: `export MIDDLEWARE_HOME=/usr/c/Oracle/Middleware`

2 次のいずれかの方法を使用して、フォルダの場所を Ant に渡します:

- コマンドライン・パラメータとして。例:

```
ant -Dcommon.components.home=C:/Oracle/Middleware/  
oracle_common
```

- `build.properties` ファイルで、編集のためにファイルを開き、`common.components.home` 変数の定義のコマンドを解除します。例:

```
common.components.home=C:/Oracle/Middleware/oracle_common
```

3 ソース・コードを再コンパイルします。

著作権情報

Profitability and Cost Management External Automation Processes Guide, 11.1.2.3

Copyright © 2012, 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

著者: EPM 情報開発チーム

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS:

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。